

企業交流会実施報告



第29回企業交流会

「産業技術総合研究所ミニマルファブシステム交流会」実施報告

事業部会

1. 企業交流会概要

2018年3月6日(火)、第29回企業交流会をつくば市の国立研究開発法人産業技術総合研究所で開催した。今回は一般社団法人ミニマルファブ推進機構に支援を願い、公的研究機関との交流を中心とした企業交流会とした。テーマは「新しい半導体・多品種少量生産システムにおける品質工学の適用を探る」であり、多品種少量及び変種変量生産ニーズに対応したミニマルファブシステムによる新しい半導体システムにおいて、品質工学の適用で如何に研究開発を促進するかについて議論した。初めて、公的研究機関のサポートを受けての開催であり、今までの企業交流会とは異なる幅広い層での交流になった。参加者は発表者を含めて学会側から45名、産業技術総合研究所およびミニマルファブ推進機構参加156社から56名の合計101名と、大会は盛況だった。参加者からのアンケートおよび感想文も含め

て報告する。

冒頭、学会の谷本会長からは「公的研究機関との開催は大きな転換点になる」との言葉、ミニマルファブ推進機構の小林理事長からは推進機構の経緯および品質工学による研究開発の促進への期待などの話があり、その後ミニマルファブモデル工程の見学で午前の予定は終了した。午後は以下の内容で会は進行した。

2. プログラム内容

2.1 ミニマルファブシステム及びファブシステム研究会の紹介：

原 史朗グループ長

((国)産総研ミニマルファブシステムGr)

先進国では高付加価値の半導体が求められており、その研究開発及び生産を容易に実行するために、従来の大きな生産設備ではなく小さな規模の設備でスピーディーなプロセスの実現に向けて研究会はスタートした。適切な規模をさまざまな情報から検討して、従来の1/1000が妥当と結論付け、それを実現する設備の検討に入った。特徴は局所クリーン化の搬送技術にある。これで、デバイスの試作期間は3日←6か月、プロセス開発人員は10名←15000名など大きな効果が得られた。

2.2 基調講演「半導体製造のための品質工学」：

吉澤正孝

(クオリティ・ディープ・スマーツ(責))

ミニマルファブのように多くの製造工程が連結されている場合、1つの工程のばらつきを抑えること



会場の様子